

授業概要

(英語の)文法は母語話者の頭の中に収められた知識である。生得的な面も含め無意識のうちに獲得したので母語話者にも中身は説明できない。英語を学習している日本人には相当複雑な文法に見える。しかし日本語も英語も同じ人間言語である。「多様性」の向こう側、もっと深いところで共通性(普遍性)があり、どんな原理があるか、をさぐる。

授業計画

第1回	Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax. (1)
第2回	Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax. (2)
第3回	Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax. (3)
第4回	Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax. (4)
第5回	Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax. (5)
第6回	Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax. (6)
第7回	Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax. (7)
第8回	Noam Chomsky (1977) "On Wh-movement." (1)
第9回	Noam Chomsky (1977) "On Wh-movement." (2)
第10回	Noam Chomsky (1977) "On Wh-movement." (3)
第11回	Noam Chomsky (1977) "On Wh-movement." (4)
第12回	Noam Chomsky (1977) "On Wh-movement." (5)
第13回	Chomsky and Lasnik (1995) The Theory of Principles and Parameters. (1)
第14回	Chomsky and Lasnik (1995) The Theory of Principles and Parameters. (2)
第15回	Chomsky and Lasnik (1995) The Theory of Principles and Parameters. (3)
第16回	定期試験

到達目標

伝統文法、教育文法で提示される不規則動詞など例外の完全なリスト、規則的な構文の模範や例、様々なレベルでの詳しさや一般性を持つ表現の形式の意味についての観察をおさらいしつつ、この様な英語の知識の性質、獲得、用法について説明を与える生成文法の考え方を理解する。

履修上の注意及び予習・復習

主として講義形式であるが、履修する学生にレポートしてもらうこともある。現代は何でも翻訳版が出ているが、英文法の研究だから、(翻訳はあまり当てにならないこともあるので)、英語の文献も取り上げるようにしたい。

評価方法

- 出席および授業への参加度。
- 期末試験の点数(ただし授業に3分の2以上出席していることが受験資格である)。

テキスト

印刷教材を使用する。参考文献は随時紹介する。とりあえず、次の文献を挙げておく。
Noam Chomsky (1965) Aspects of the Theory of Syntax, MIT Press.
大津由紀雄、今西典子、池内正幸 他『言語研究入門:生成文法を学ぶ人のために』研究社